

「みやままさり」1・3年生栽培における株間、窒素施肥量

福島県農業試験場こんにゃく試験地
平成17年度試験成績概要

- 1 部門名 特用作物—コンニャク—施肥量・栽植様式・栽植密度
分類コード 06—02—13150000
- 2 担当者 菊池正・浅沼顕
- 3 要 旨

福島県内で栽培適性が高いコンニャクの優良品種「みやままさり」について、1・3年生栽培における最適な株間、窒素施肥量を検討した。畦間は60cmとし、マルチは1年生栽培では敷わら、3年生栽培では大麦被覆(散播)を利用して試験を行った。

(1) 1年生栽培においては、株間7.5cm、窒素施肥量1.0kg/aでは、球茎収量及び球茎肥大倍率が高く、腐敗病罹病球茎率が少なかった。また、株間7.5cm、窒素施肥量1.5 kg/aでは、株間7.5cm、窒素施肥量1.0kg/aと比べ、増肥による増収効果が見られなかった。以上より、株間7.5cm、窒素施肥量1.0kg/aが種イモ増殖栽培として適していると考えられた。

(2) 3年生栽培においては、株間27.5cm、窒素施肥量1.5kg/aでは、株間30.0cm、窒素施肥量2.0kg/aと比べ、球茎・生子収量が高く、球茎肥大倍率が同程度で、腐敗病罹病球茎率がやや高かった。以上より、株間27.5cm、窒素施肥量1.5kg/aが球茎販売栽培として適しているが、腐敗病発生に留意する必要があると考えられた。

- 4 その他の資料など